

## ピリピ人への手紙1章6節「完成して下さる良い働き」

### 1A パウロの感謝

1B 福音の働きへの携わり

2B 投獄されている時の贈り物

### 2A 良い働きを始められた方

1B 願いと志に働かれる神

2B 神の真実

1C 終わりまで計画されている方

2C 神の作品

3C 困難から救われる方

### 3A キリスト・イエスの日

1B 救い主の到来

2B キリストと同じ姿

3B 報い(だれが主人か?)

### 4A 救いの達成

1B 忠実な働き

2B 機会の活用

3B 福音の大義

## 本文

ピリピ人への手紙 1 章を開いてください。私たちは今日から、ピリピ人への手紙に入ります。午後に、前半部分を一節ずつ見ていきますが、今朝は 6 節に注目します。「**あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させて下さると、私は確信しています。**」

### 1A パウロの感謝

#### 1B 福音の働きへの携わり

パウロの、このピリピ人への手紙は、どのようなものなのでしょう。これは、福音を宣べ伝える働きに従事しているパウロに、物質的な支援を定期的に行っている教会の人々に、感謝と喜びを伝えている手紙です。福音宣教の働きのために、パウロは多くの苦しみを通っています。今、この手紙を書いているのは、ローマで、皇帝の前に出て裁判を受けるために投獄されているところからです。そこに、贈り物がピリピから届きました。そしてその贈り物をしている、ピリピの人たちもいろいろな困難の中にあります。箴言には、「17:17 友はどんなときにも愛するもの。兄弟は苦難を分け合うために生まれる。」とあります。福音の働きのために、苦しみを分け合っている間にある、兄弟

愛が、この手紙には色濃く出ています。

私がしばしば、世界で苦しみを受けている教会の人々のために祈ることを要請しますね。また、貧しいユダヤ人を助けるキリスト者たちを支援しています。そして、ウクライナの戦禍にいる兄弟たちのためには、物資的支援をお願いしたこともありましたが、これからはしたいと願っています。彼らは、苦しみを経ているだけでなく、苦しみの中で福音が広がっていることを報告しています。どうして、そういった人々に祈りの支援と、物質的支援をするのか？このことをしっかりと心に留めていただきたいのです、それは「支援をする人々が、働いている人々と共に神の恵みにあずかっている」からです。

5 節を見てください。「あなたが最初の日から今日まで、福音を伝えることにともに携わってきたことを感謝しています。」とあります。ここの「携わる」というのは、ギリシア語は「コイノニア」です。ですから、「福音を伝えることに交わってきたことを感謝しています。」と訳すことができるのです。私たちは、「交わり」というと、何かいっしょに話して恵みを分かち合っていくということを想像しますが、もちろんそれも交わりではありますが、新約聖書には、誰かを物質的に支援している時に、その働きの中で、交わっているという言葉を使っています。真実な交わりは、自分が受けることではなく、神の恵みによって与えられたものを、神の働きに献げることによって、一つになることができます。

7 節で、パウロは、ピリピの人たちのことを、「私とともに恵みにあずかった人たち」と言っています。福音宣教の働きで、そこで人々が福音を信じて救われる時に、その恵みは宣べ伝えているパウロだけでなく、パウロの支援をしている人々もそうなのだ、ということです。主が戻って来られて、それぞれに報いを与えられる時に、福音を宣べ伝えた人だけでなく、支援している人も全く同じように、報いを受けるのです。このようにして、神の救いの働きは、福音を宣べ伝える人と、支援する人々との間で分かち合っており、そこにおいて一つの結びつきができます。その結びつき、交わりを、パウロは味わっているのです。ピリピの人たちも味わっています。

パウロが、1 章 1 節、手紙の始まりに、「キリスト・イエスのしもべである、パウロとテモテから」と言っていますが、自分が使徒であるということ言う必要がありませんでした。パウロが使徒であることは、ピリピの人たちは当たり前のように受け入れていて、その前提があるから、パウロが使徒であることの弁明をする必要など全くなかったのです。これが、成熟した、教会指導者と信者たちとの関係です。

## 2B 投獄されている時の贈り物

そして、先ほど申し上げたとおり、パウロが福音を語っている時だけでなく、投獄されている時に、贈り物を届けにきました。苦しんでいる時にも、贈り物を届けてくれました。しばしば、支援というのは、その働きが華々しく見える時は多く集まりますが、それほど目立たない時に、またいろいろ人

間的にはうまくいっていない時には、支援金が減ってしまいます。けれども、どんな時であっても、彼らはパウロを支援していたのです。

そして、ピリピの人たち自身も実は裕福でも何でもなく、迫害を受けていましたし、貧しくなっていました。その中で、パウロに懇願するようにして献げる様子が、コリント第二 8 章に出てきます。ここにおいては、パウロの福音宣教の働きではなく、エルサレムの貧しい兄弟たちのために支援金を、異邦人主体の教会から募っていたのですが、パウロは、ピリピの人たちは非常に貧しかったので、彼らから募ろうとは思っていませんでした。ところが、このようなことが起こっています。2-4 節です、「Ⅱコリ 8:2-4 彼らの満ちあふれる喜びと極度の貧しさは、苦しみによる激しい試練の中にあってもあふれ出て、惜しみなく施す富となりました。3 私は証します。彼らは自ら進んで、力に応じて、また力以上に献げ、4 聖徒たちを支える奉仕の恵みにあずかりたいと、大変な熱意をもって私たちに懇願しました。」ここでも、「奉仕の恵みにあずかる」とありますが、「奉仕の恵みの交わり」と訳すことのできる場所です。同じように、キリストにあつてユダヤ人と異邦人が交わりということが、自分たちが献げることによって受けることのできる、恵みなのです。

支援というのは、富んでいる人々が貧しい人々にすべきのものだ、というのは、いささか単純すぎます。バプテスマのヨハネが「悔い改めなさい」と説教をしている時に、群衆の中で、どうすれば悔い改めることができるのかと尋ねる声がありました。「ルカ 3:11 下着を二枚持っている人は、持っていない人に分けてあげなさい。」と言っています。これは比喩ではなく、当時、着る物はとても希少でした。貧しいから分け与えないという言い訳は全く正当化できるものでした。しかし、今、持っている物で分け与えなさいということ、ヨハネは勧めたのです。ただ物を渡すということ以上のものが、分け与えることには意味があるからです。交わりがあります。神の恵みに共にあずかる、ということがあります。そこにある喜びと、キリストの愛があります。

## 2A 良い働きを始められた方

### 1B 願いと志に働かれる神

ピリピの人たちがパウロに支援を続けることについて、パウロは、「**あなたがたの間で良い働きを始められた方**」と言っています。彼らが良い働きをしていると言っておらず、神ご自身が良い働きを始められた、と言っているのです。これは一体、どういうことでしょうか？2 章 13 節に、こうあります。「**神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。**」ピリピの人たちに願いや志が与えられて、それで行っていたことですが、これは神が、ご自分のみこころのままに、彼らの志に働きかけて、それで事を行わせていた、ということです。

ここから、何が分かるでしょうか？神は、何かじっとしておられて、その神に対して私たちが一生懸命、働くということではありません。教会は、私たち自身が聖霊の宮だと呼ばれています。つまり、神は御霊によって、私たちの内に働きかけて、それで志や願いを起こさせて、それを行っていくこ

とによって、神ご自身がご自分のことを成し遂げられるということなのです。この教会そのものが、ですから、神のわざなのです。一人ひとり、それぞれの導きでここにいます。けれども、それは神が御霊によって内で働かれて、今、ここに至るのです。

私たちが何かをする時に、それが果たしてみこころなのかどうか、悩みますね？そこで良いみことばがあります。「詩 37:4 【主】を自らの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」この言葉は、「主は、あなたに心の願いをくださる」とも訳すことのできる場所です。主ご自身を自分の喜びとしているということです。自分が何をすればよいか、ということを考えるよりも、主ご自身を喜ぶ。この方のなされることを見つめる。この方の命じられていることに心を留める。主を喜んでいる。そうした中で、自分に志があったり、願いがあったりします。

## 2B 神の真実

そしてパウロは、「**キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださる**」ということ、確信しています。神が始められたのだから、神が必ず完成してくださるということです。神は、それだけ真実な方です。一度、始められたことを、終わりまでしっかりと守って下さるのだということです。「1コリ 1:8-9 主はあなたがたを最後まで堅く保って、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところがない者としてくださいます。9 神は真実です。その神に召されて、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられたのです。」

## 1C 終わりまで計画されている方

神は、永遠の神であり、ご自分の知識と知恵によって、予め計画してくださっている方です。つまり、何かを始められる時は、すでに終わりまでを計画しておられて、それで始めておられます。「ロマ 8:30 神は、あらかじめ定めた人たちをさらに召し、召した人たちをさらに義と認め、義と認めた人たちにはさらに栄光をお与えになりました。」私たちが召される時に、すでに神は栄光を与えたと完了形で語っておられます。いや、召される前から、つまり救われる前から、「あらかじめ定めた」と言っていますから、すでに栄光を与えられて、それで予め定めておられるのです。このように、神のご計画は、初めの時にすでに終わりまでを計画しておられるのです。

## 2C 神の作品

ですから、私たちは、神のなされることに任せることができます。主は必ず、すでに始めた良い働きを、完成されるのです。自分はここまでクリスチャンとして頑張ったけれども、この後でどうなるかわからない、神は見捨てられるかもしれないと心配する必要はないのです。主が召されたということは、すでに予め定めておられ、神の永遠の目には、すでに栄光の姿に変えられているのも見ておられて、それで今、働いてくださっています。パウロは、このことを「神の作品」と呼び、良い行いは予め備えてくださっていることを説明しました。「エペ 2:10 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩む

ように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。」

### 3C 困難から救われる方

私たちは、このことをピリピの人たちと同じように、困難や試練がある時に特に思い出しましょう。主から志が与えられて、誠実に行っていることがあって、何か不都合なこと、困難なことが起こると、どうしても、あきらめたいという思いが出てきます。けれども、主が良い働きを始められたのです。この良い働きは、主ご自身がすでに用意されていたものなのです。ですから、主は真実な方ですから、必ずこれを完成してください。私たちに必要なのは、どんなことがあっても、忠実であることです。スミルナの教会に対しては、イエス様は、「死に至るまで忠実でありなさい。」と言われました(黙示 2:10)。自分ではもう無理だと分かっても、主が良いことをしておられるのだから、主が支えてくださいますし、成し遂げてくださるのです。

私個人の証しは、やはりトルコとイスラエルへの旅でした。自分の内では、肉と不信仰との戦いでした。最も大きな試練は、コロナの第一波で出発直前にイスラエルが入国禁止にしたことです。これは、何か自分自身が勝手に願って、それで主に押し付けていたのか？と感じてしまいました。そして、旅の途中でも、何度も何度も、想定していなかった出来事が起こりました。しかし、すべて自分にはできないことが、主がしてくださいました。終わってみたら、何ら不足もありませんでした。主が始められたのですから、必ず成し遂げてくださるのです。しかも、主ご自身がしていることを証しするために、私自身ではできないことを示しながら、これらのことを行われるのです。

### 3A キリスト・イエスの日

そして、「**キリスト・イエスの日が来るまでに**」と言っていますね。これは、主が救いを完成されるために、天から降りて来られる時のことを指しています。

#### 1B 救い主の到来

イエス様が天から戻って来られる時に、すでに主にあって死んでいる者はよみがえり、生き残っている私たちは空中に引き上げられます。そして主と共にいることとなります。「3:20 **しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。**」

#### 2B キリストと同じ姿

私たちは、もう既に救われています。神に御怒りから救われ、罪から救われています。義と認められています。けれども、その救いというのは、私たち自身が神のかたちに回復することです。神が人を初めに造られた時に回復することが、救いの目的です。アダムが罪を犯したことによって、神のかたちから損なわれてしまったのですが、それをキリストにあって回復します。ですから、私たちはキリストの義を身にまとして、神が私たちを見る時に、義とみなしてください。しかし、

神は聖なる方ですから、私たちが聖なる者として変えていってくださっています。それが今現在です。そして、その聖なる者として変えられている中で、イエス様が戻って来られる時に、この肉体も変えられて、栄光の体に変えられて、それで完成するのです。今読んだ、ピリピ 3 章 20 節に続きを読みます。「3:21 キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。」キリストの栄光に輝く姿と同じように変えてくださいます。

ですから、私たちが今の時代を生きている時に、このことを無視できないのですね。神のかたちに似せて生きるのに、今はまるで違うように生きていたら、矛盾するわけです。主の現れを待ち望むと、キリストが清い方であるように、自分自身を清くすると、ヨハネ第一に書いてあるとおりです。

### 3B 報い(だれが主人か?)

そこで、主は一人ひとりに報いてくださいます。「Ⅱコリ 5:10 私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです。」ですから、私たちは働きをする時に、だれに仕えているのか？を明らかにすることができます。地上の人たちに仕えていても、仕えているのは主イエスご自身です。この方を主人として仕えているのです。ですから、人から認められなくとも、主は見ておられます。また、人から拒まれても、主の命令に従うことが大事です。

### 4A 救いの達成

そういうことで、私たちは、神が良い働きを始めて、それを神が完成してくださることを知りました。私たちはどうすればよいのか？ということですが、ピリピ 2 章 12 節にあります。「こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私がともにいるときだけでなく、私がいなくてもあなたも従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。」恐れおののいて、自分の救いを達成するよう努める、ということです。これはあたかも、自分の行いで救いを達成しなければいけないように聞こえます。けれども、そうではなく、神ご自身がみこころのままに、私たちに志を立てておられます。神のなされることに、私たちは恐れおののきをもって、従順になるということです。自分の行いではなく、神が自分の内で行われることに、健全な神への恐れをもって従っていくことです。

### 1B 忠実な働き

そのためには、先ほど話したように、忠実であることですね。タラントの喩えにあるように、五タラントの人は五タラントの利益、二タラントの人は、二タラントの収益を得ますが、主人はどちらにも、「小さなことに忠実だから、大きなものを任せよう」と言っており、報いは同じなのです。自分に任せられたことに忠実であるということです。

## 2B 機会の活用

そして機会をよく用いることです。「エペソ 5:16 機会を十分に活かさない。悪い時代だからです。」パウロは、今、ローマの牢に入っていますが、その中でパウロを鎖でつないでいる看守、すなわちローマ兵たちの間に福音が広がりました。皇帝直属のローマ兵たち、親衛隊の人々の間に福音が広がったのです。自分がローマにまで来て、牢に入れられているということに、彼は主のみこころを知っていました。彼の召命は変わらないのです。だから、そこにいるのはローマの親衛隊に福音を語り、そして皇帝本人の前に法廷出ていく時に、キリストを証しするためだったのです。このように、私たちは、主によってどんなところにも、そこにみこころがあることを知り、主に命じられていることを行っていくのです。そうする時に、自分の救いが達成されていきます。

## 3B 福音の大義

そして最後に、福音を大義として、またキリストを第一とすることです。これは午後礼拝でもじっくり見ていきますが、パウロの周りには敵意を持っている人々がいました。彼が牢に入っていることをよいことに、彼の評判を落としながら福音を語っている人々がいました。そこでパウロは、どう思ったのか？「1:18 キリストが宣べ伝えられているのですから、私はそのことを喜んでいきます。」と語っています。彼には大義がありました。キリストがあがめられること、キリストが宣べ伝えられることです。そのことが達成されるのであれば、自分のことを妬んでいるとか、そういうことは二の次だと思ったのです。

今日、あまりにも多くのことで、私たちの気を逸らしたり、何が大切なのかを忘れさせるものに満ちています。ある教会のグループが、他の教会のグループを攻撃したり、残念なことが起こります。けれども、福音が宣べ伝えられること、キリストがあがめられることを考えるのであれば、神の国がどのような広がりをもっているかを知ることができますね。自分とやり方の違う人々がいても、キリストは自分の好みややり方をはるかに超えて、ご自分の救いを多くの人々に与えたいと願っておられるのです。こうして、救いを恐れおののきつつ達成するべく務めるのです。これは、自分の行いというよりも、神の行い、神の働きの大きさや広さ、深さに感動しながら、畏れ多いと思いながら、生きていくことです。

そして、その救いの始まりは、自分自身がまずイエスが、自分の罪から救われる方なのだ、三日目によりみがえり、この方が主なのだということを信じ、受け入れるところから始まります。